

底質環境シンポジウム - 港湾域の持続的発展を目指した技術開発 -

平成 16 年 12 月 21 日 (火) 13:00 - 17:00

主催：東海大学海洋研究所鶴谷広一教授・国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部
場所：東海大学校友会館：霞が関ビル 33 階 阿蘇の間

(東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号 TEL03-3581-0121)

会費：無料

プログラム：裏面参照

定員：150 名 (定員になり次第受付を締切らせていただきます)

申し込み：添付の申込書により事前のご登録を 12 月 15 日までをお願いします

趣旨・目的：

港湾域は、防波堤による水域の囲い込み、航路浚渫による深場の存在などにより、底質悪化による水質汚濁、航路埋没などが生じやすい状況にあり、底質改善の様々な努力がなされてきました。また、近年、底質環境と生物生息の関連が着目され、生態系の創造や再生事業における底質環境の重要性なども指摘されてきているところであります。

その実態を把握するためのモニタリング方法や制御法については、各局・各所で技術の開発、経験の蓄積が図られています。そうした技術開発状況についての相互の情報交換や、新たな技術や試みによる実態把握の事例紹介を目的として、東海大学鶴谷広一教授と国総研沿岸海洋研究部が共同で、当シンポジウムを企画しました。

本シンポジウムにおいては、産学官の連携を目指して、国土交通省・各整備局の取り組みの紹介、民間技術の紹介、大学における研究事例の紹介などを中心として、

- 1) 底質環境の実態把握のための手法についての情報交換を行い、共通の技術資産として共有すること
- 2) 底質環境の制御法に関する個々の技術の適応性や特殊性に基づく利用方法についての参考となる事例を共有すること
- 3) 今後の事業・調査実施に必要な情報や技術の発掘を目指したいと思っております。

皆様のご参加をお待ちしております。

会場アクセス

- 地下鉄銀座線 虎ノ門駅 (5 出口) 徒歩 3 分
- 地下鉄日比谷線・千代田線 霞ヶ関駅 (A13 出口) 徒歩 7 分
- 地下鉄丸の内線 霞ヶ関駅 (A4 出口) 徒歩 8 分
- 地下鉄銀座線・南北線溜池山王駅 (9 出口) 徒歩 6 分
- 地下鉄丸の内線・千代田線 国会議事堂前駅 (4 出口) 徒歩 7 分
- 地下鉄有楽町線桜田門駅 (2 出口) 徒歩 8 分

事務局連絡先

国土技術政策総合研究所
沿岸海洋研究部海洋環境研究室 古川・笠原
〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬 3-1-1
Tel. 046-844-5023
Fax. 046-844-1145
E-mail: furukawa-k92y2@ysk.nilim.go.jp



底質環境シンポジウム - 港湾域の持続的発展を目指した技術開発 -
東海大学海洋研究所鶴谷広一教授・国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部

プログラム（予告無く変更となる場合があります）

1. はじめに 13:00-13:20
挨拶および趣旨説明
国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部長 細川恭史
2. 事例発表1：底質環境の実態把握 13:20-14:50
(1) 港湾工事における濁り影響予測の手引きについて
国土交通省港湾局環境整備計画室 山廻邊 伸充
(2) 港湾や沿岸域における有害化学物質の分布について
独法港湾空港技術研究所沿岸生態研究室長 中村由行
(3) 沿岸域環境調査における底質 COD 測定の検討
宮崎大学工学部土木環境工学科助手 鈴木祥広
(4) 音響装置を用いた沿岸域の底質分布図の作成および底質環境調査に関する幾つかの試み
国土技術政策総合研究所沿岸海洋研究部主任研究官 岡田知也
(5) 海底軟泥層密度分布の音響測定法と釧路港での適用例
(株)システムインテック 賀谷彰夫・佐々木綾
東海大学 海洋研究所 鶴谷広一
国土交通省九州地方整備局 谷川晴一・井方弘正
国土交通省北海道開発局 金田充、松本浩史
(6) 底質環境のモデル化
独法港湾空港技術研究所海洋・水工部主任研究官 中川康之
3. 休憩： 14:50-15:10
4. 事例発表2：底質環境の制御法・事業展開 15:10-16:40
(1) 有明・八代海域の修復と保全
熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授 滝川清
(2) 瀬戸内における水産との連携を目指した干潟造成
国土交通省中国地方整備局広島技術調査事務所長 松本英雄
(3) 英虞湾における浚渫ヘドロを用いた干潟再生工法，および，外部から砂投入が不要な底泥置換覆砂工法
大成建設技術センター土木技術研究所 上野成三
(4) 干潟環境維持のための耕耘曝気実験
国土交通省九州地方整備局下関技術調査事務所長 吉田秀樹
(5) 田子の浦港公害防止対策事業実証実験工事
静岡県土木部港湾総室長 大津光孝
(6) 汚染底質の環境浚渫工法
五洋建設環境事業部 佐藤昌宏
5. おわりに 16:40-17:00
今後の展望
東海大学海洋研究所教授 鶴谷広一
(敬称略)

